

平成29年度放射薬学教科担当教員会議議事録

日時 平成30年3月27日（火）11:50～12:40

場所 ANAクラウンプラザホテル金沢3F瑞雲1（F会場）

出席者 73名

議長 荒野 泰（千葉大学大学院薬学研究院）

世話人 小川 数馬（金沢大学新学術創成研究機構）

議事

荒野泰先生（千葉大学）が議長となり、定刻に放射薬学教科担当教員会議が開会した。

1. 第103回薬剤師国家試験問題検討WGからの報告

薬剤師国家試験問題検討WG の加藤真介先生（横浜薬科大学）により、第103回薬剤師国家試験（2018年2月24、25日実施）での放射薬学関連問題についてのWGによる検討結果が報告された。

（1）放射薬学関連問題出題数の件

国家試験出題345問のうち放射薬学関連問題は2問であった。内訳は、衛生の理論問題（1問）、物理・化学・生物（複合領域）（1問）であった。尚、第102回薬剤師国家試験での問題数は計4問であった。

（2）衛生の理論問題（問135）に対するコメントの件

WG 委員から次のようなコメントが寄せられた。

選択肢1:半減期に関係する設問の方がよい

選択肢3:乳幼児と成人に生物学的半減期の違いを問う問題は難しいが、消去法により解答が導き出せる。

選択肢5:生物学的半減期が同じであるため、実効半減期を求める数式を知らなくても正誤の推測ができてしまう。生物学的半減期といった個体差がある値を用いて、理論上9日といった差を問うのは少し違和感がある。

全体:物性としての半減期の場合、物理的半減期（学がなし）の方が良いように思われる。生物学的半減期は資料により、値に多少の差があるため、「表は・・・示しているとする。」と表記すべき。

（3）複合問題である実践問題（問203）に対するコメントの件

WG 委員から次のようなコメントが寄せられた。

選択肢1:X線の波長を問うのは難しいと思われるが、示している波長が紫外線の波長であるため、X線の波長が紫外線よりも短いことを知っていれば正解できる。

選択肢3:問い方が強引である。

選択肢5:「測定者を被ばくから防御する必要があるか」と「遮蔽にはアクリル板が適しているか」と2つの要素が含まれている文章にも見える。明確に1つの事柄を問う文章にした方がよい。

「など」は、鉛エプロンも含むような混乱を招く可能性があるため不要。

全体:物理的診断法や遮蔽に関する基本的な知識を問う良問。

誤答選択肢の内容が細かすぎる印象があるが、正答が平易で基本的な問題。

（4）総括的なコメントの件

1)放射薬学関連の理論問題に対するコメント:

- ・半減期と組織集積性に関する良い問題。

- ・核分裂生成物が出題されたのは良かった。
- ・計算問題をもっと取り入れるべき。
- ・物理的な理論を問う問題が望ましい。

2) 放射薬学関連の実践問題に対するコメント：

- ・CT画像診断としての設問は適切。
- ・診療でよく利用されている放射性医薬品に関する知識や、取扱いに関する出題が望ましい。

3) 放射薬学関連問題全体に対するコメント：

- ・必須問題の出題がないのは残念。
- ・放射線の物理的性質に関する問いを増やすべき。
- ・放射性医薬品や核医学分野の問題がないことは、病院薬剤師による放射性医薬品への調製への流れを鑑みるに、極めて残念。
- ・全体で2問（0.6%）の出題というのは少ない。

会場からは特にコメントはなかった。議長より、各大学が今回の国家試験に対してコメントを出す機会が後日あるので、その際に各担当の教員はこれらのコメントを参考に役立ててもらいたいとの発言があった。

2. 薬学生や薬剤師の放射線教育について

(1) 秋光信佳先生（東京大学アイソトープ総合センター）から、日本学術会議の提言「大学における非密封放射線同位元素使用施設について」の情報提供がなされた。概要は次のとおりである。

- ・日本学術会議の提言に拘束力は無いが、公平かつ科学的立場で学術分野における問題点を分析し、解決策を提案している。
- ・薬学分野を含めた医療系分野における放射線教育の衰退という問題が提起された。
- ・ひとつの解決策として、ネットワーク型のRI利用拠点を整備し、そこでの放射線教育（特にRI実習）を実施することが提案された。

(2) 秋光信佳先生（東京大学アイソトープ総合センター）から、薬学生や薬剤師教育に対するアイソトープセンター長会議の動向、国立大学アイソトープ総合センター群の放射線研究拠点化構想のご紹介に関して情報提供がなされ、国立大学アイソトープ総合センター群が薬学教育に貢献可能である旨の説明があった。今後、どのように国立大学アイソトープ総合センター群が薬学教育に貢献できるかの参考にするために、会議参加の教員に対して、現状のアイソトープ利用などのアンケートを配付資料により実施し、会議終了後に回収した。

(3) 久下裕司先生（北海道大学アイソトープ総合センター）から、核医学認定薬剤師制度が発足し、核医学における放射性医薬品の調製や品質管理、薬物動態評価などをはじめとして、放射性医薬品・放射性物質の取扱いに習熟した薬剤師を養成し、診療の安全性を向上して社会に貢献することを目的としていること、そして、その認定方法、詳細は日本核医学会のHPに記載があることの説明があった。

3. 次回の紹介について

次回世話人の東京理科大学月本光俊先生より、次回の教員会議の実施に関して紹介があった。

- ・薬学会第139年会は平成31年3月20日～23日に行われ、東京理科大学が幹事校を務める。
- ・放射薬学担当教員会議は年会開催期間中に行う。
- ・年会は幕張メッセ周辺地域で行われる。

閉会

12 時40 分

平成30年3月27日